認知症高齢者 働く喜び

仙台の通所施設が後押し

社会との接点重視

仙台市宮城野区の通所リハビリテーション施設「みはるの杜診療所」が、通所者に就労機会を提供している。認知症や障害を理由に引きこもりがちな高齢者に、再び社会とつながってもらいたいと考えた。通所者が栽培した野菜は子ども食堂の食材にもなり、やりがいにつながっている。

「黒いビニールマットをカラスの形に切り抜いてきた。これで鳥が来ない」

3日、同区岡田の体験農園。通所者の1人はそう語ると、診療所が借りた区画に農業用の支柱を立てマットをくくり付けた。他の2人も農地をくわでならしたり、土に肥料をすき込んだりして汗を流した。

昨年4月の営農開始からこれまでにサツマイモやキュウリなど計約100キロを収穫。通所者が食べるだけでなく、同区の子ども食堂にも寄付される。

農作業に用いる資機材の購入費用も通所者の就労で賄う。通所者が診療所と関わりのある医療・介護施設を車で巡り、大人用おむつなどの段ボールを回収。専門業者に販売して得られる収益が原資となる。

段ボール回収も農作業もする男性通所者(77)は「子どもたちがおなかいっぱいになるなら、これほどうれしいことはない」と満足げだ。通所者の中には診療所業務に携わったり、外部企業で軽作業を行ったりした人もいる。

診療所が通所者に就労を勧めるようになったのは2017年。高齢者は認知症と診断されると、本人も家族も「もう何もできない」と考えて家に閉じこもりがちになるが、外で働くことで社会との接点を保ってもらうために始めた。

診療所のディレクター千坂祐さん(38)は「病気や障害がある方はどうしても応援される側になりがちだが、地域を応援する側になる活動を後押ししていきたい」と力を込める。

診療所は就労への参加者に加え、就労機会の提供者も募っている。連絡先は022(254)7057。

畑仕事に精を出す通所者ら

野菜栽培 子ども食堂へ寄付

段ボール回収 資機材費用に